

1 スクール・ミッション				
「創造性の開発と個性の発揮」という建学の理念の下、「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を校是に掲げる工業系大学の併設校として、中高大連携を意識した理数教育の充実をもとより、文理の枠を超えた探究的な学びを中心とした重層的、複層的な教育活動を行います。生徒一人ひとりが生き生きと学校生活を楽しめるよう、学校や学級に愛着が持てるようします。その上で、知的好奇心にあふれ、命を大切にする自由な心と人への思いやりを持ち、創造性と個性を生かし、将来、国内外で新たな価値を生み出すことができるような人材を育成します。				
2 教育目標		3 スクールポリシー		
人生100年時代とも言われ、長寿化、複雑化する社会の中で、生涯にわたる学び続けることができるような主体的に学習に取り組む態度を育てます。また、国内外に横たわるさまざまな社会課題に対して、自ら問いを立て、解決することができるよう、さまざまな人々と協働できる豊かな人間性と粘り強く学ぶことができる力を養います。		【カリキュラム・ポリシー】 (1)クラス・学年活動、生徒会活動、部活動などを通じ、集団の中で他者と協働しながら、粘り強く課題解決していく力を養います。放課後支援などを通じ、基礎学力の定着と底上げに注力します。 (2)ICTを活用しながら、個々人の知識や技能を高めるとともに、思考力、判断力、表現力を育成していきます。なお、ICTに活用にあたっては、一定のルールの中で活用できるように留意します。 (3)併設の芝浦工業大学や地元の千葉大学をはじめとする大学や外部の企業や研究所、地域と連携した理系プログラムを展開します。文理にとらわれない探究的な学びをすることで、生徒の知的好奇心を育むとともに、STEAM教育やアントレプレナーシップ教育などにも取り組み、生徒が主体的に学ぶ態度を醸成します。 (4)系列の芝浦工業大学との連携により、先取り講義や大学研究室での教員や大学院生によるサポートを受けた課題研究を実施し、より深く学びたい生徒の知的欲求に応えます。 (5)対面やオンラインを活用し、語学研修や海外の生徒との探究的なプログラムを実施することで異文化理解を深め、将来、海外で活躍できるような力の育成にも注力します。		【アドミッション・ポリシー】 (1)知的好奇心があり、意欲的、忍耐強く学び続ける生徒を求めています。 (2)科学的な考え方や調査・観察・実験に興味があり、論理的に思考する生徒を求めています。 (3)海外の文化や国際交流に関心を持ち、異文化に対し興味がある生徒を求めています。 (4)集団の中で他者を尊重し、協働して物事を解決しようとし、思いやりの心を持った生徒を求めています。
4 中期目標と方策				
長寿化とICT技術の飛躍的発展、成人年齢の引き下げなどにより、中等教育機関では、主体的に学び続け、社会的にも自立した生徒の育成が求められている。そこで、本校では創立の理念である「想像性の開発と個性の発揮」を踏まえ、文理の別なく知的好奇心を育み、主体的に学ぶ生徒を育てることを中期目標として掲げたい。2年後には学校法人が創立100年、5年後には本校の創立50周年を迎える中で、新校舎建設プロジェクトも動き出した。生徒一人ひとりに寄り添いながら、その能力を最大限に発揮できるように環境の整備をハード、ソフト両面で実施していく。また、働き方改革の側面から、これまで教員が担ってきた業務の精選と外部への委託なども進めながら、各校務分掌、学年団、教科が相互に連携しながら、生徒の能力開発を行っていくことで、教員相互の情報共有と協働を進め、業務に備りが出ないような組織体制の構築にも努めたい。		(1)目標 1. SSH第III期指定校として芝浦工大をはじめとする高等教育機関との高大連携をさらに発展させながら、「SSコンピテンシー」を育む。 2. 探究科を中心に、特別活動のあり方なども見直しながら、探究的な学びを中高6力年の体系的なプログラムとして確立し、知的好奇心、主体的な学びに通じる意欲を醸成していく。 3. 基礎学力の定着を目指し、放課後学習を充実させつつ、ペースとなる生活習慣の確立を家庭とも連携しながら図っていく。 4. 命の大切さを生徒一人ひとりが自覚するために自己肯定感を高めるためのキャリア支援の充実を図りたい。 5. ICT教育に関して、内容の充実を図るとともに、リテラシー教育に注力するとともに、生徒の健康を守るため、機器利用に関するルール作りを進める。 6. 少子化が進む中で、今後、生徒募集が厳しくなることを踏まえ、本校のブランディングにつながる広報体制を充実させる。 (2)方策 ○教職員一人ひとりが「協働」を心がけ、日々の業務にあたることで業務の属人化を避ける。 1. SSH指定校として、連携校である芝浦工大、千葉大、金沢工大、敬信大、三条市立大、東邦看護学部や連携機関である山階鳥類研究所との情報交換を密にしていくなか、連携機関を増やすことで、高度な教育内容を充実させていくため、SSH統括室、教育振興部、探究科などが連携して、教育内容に関して検討する。 2. 生徒が多様な価値観や多面的なものを見方を身につけることができる特別活動は生徒の非認知能力の醸成につながり、探究的な学びとも、その底流でつながるものがある。そこで、中高6力年の中で学びを再構築する中で、それぞれの教育活動の価値を改めて見出し、関連付けたい。そのために、探究科、教育振興部、各学年団、各教科、生徒部などが情報共有、連動することで体系的な学習プログラムの充実につなげていく。 3. 放課後支援の充実のために、知見を持った外部業者との情報共有を密にして、生徒一人ひとりの学びに向かう姿勢を確かなものとし基礎学力の定着を図る。生徒の入学直後からの生活習慣の確立を図ることは、学習習慣の確立ともつながることであり、キャリア開発部、生徒部、学年団などが協働しながら、生徒一人ひとりの自己肯定感の醸成につなげる。 4. 中高6年を意識したキャリア開発を意識し、キャリア開発部、国際部、各学年団が連携して既存の各プログラムを見直し、生徒の自己実現につながるものとして、体系化していく。 5. ICT教育の充実と、そのリテラシー教育、ルール作りに関しては、喫緊の課題であり、ノウハウがある外部機関のサポートも受けながら、DX部、生徒部、健康支援部、各学年団が連携しながら取り組みを進めていく。 6. 生徒募集につながる効果的な入試広報戦略、少子化を踏まえた上で、本校の強みをPRするためのブランド戦略を各分掌などと連携しながら検討し、ウェブサイトやSNSによる情報発信のための改善計画の策定を進める。 7. 2030年の創立50周年記念事業として動き出した新校舎建設プロジェクトに関連し、総務部を中心に教育振興部、SSH統括室などが連携しながら、新校舎のあり方を検討しながら、併せて記念事業全体の計画にも着手する。 8. 健康支援部と生徒部、各学年団、スクールカウンセラーが情報共有を図りながら、生徒の命と健康を守るための健全育成に努める。		【評価】 1. 高大連携では、新たに国際教養大、新潟医療福祉大、新潟食糧農業大との連携協定を締結し、生徒の課題研究に即した体制整備を進めた。 2. 探究的な学びのプログラムは2年目を迎え、順調に進捗している。 3. 学生メンターによる進路相談が機能し始めており、年内入試等における実績アップにつながっている。高校生を中心に上位層と下位層の学力の乖離が見られ、個別最適化に向けた方策が求められる。 4. 年内入試、一般受験、海外大進学と進路の多様化が進み、新たな進路指導体制の検討に入りたい。 5. 情報リテラシー教育に関しては、外部機関の協力も得て、課題の洗い出しを行い、新たなルール作りを進める。 6. 生徒を巻き込んだ情報発信により、文化祭で過去最高の来場者数につながったほか、学習塾での説明会等の充実により、中高とも志願者増となった。 7. 校舎建設プロジェクトは建築費の高騰もあり、不確定要素もあるものの、法人と一体になった取り組みで一定の方向性が見つかる。 8. スマホの利用に関する講演会を開催を予定しており、調整を図りたい。
5 今年度の取組目標と方策 (1) 教育活動の目標と方策				
学習指導	目標	SSH採択校としてSSコンピテンシーを育成するため、グラウンドデザインに基づいた質の高い教育の推進	中高6年間を見通した教育課程の確立と芝浦工大など大学との連携を意識したSSH事業の推進	【評価】 ○各学年、年に2回質問紙調査を実施、また、課題研究を評価するルーブリックをSSコンピテンシーと紐づける形で改善した上で実施 ○中学S/A層増加傾向 ○89%（過去5年と比較して最も高い） ○各学年と連携、分担、協働して実施している ○4月にAIの利用にあたってのガイダンスを中1～高1で実施。公開研究授業では4件の授業でAIを活用した授業を提案。
	方策	○探究的な学びの実践 ○基礎学力の定着のための学習習慣確立 ○学力が低迷する生徒への補習・補講の充実 ○SSH事業を踏まえた図書室における特別企画展などを活用しながらの教科横断型授業の展開 ○STEAM教育の実践 ○ICT機器を活用した授業の深化	○探究的な学びの深化に資する探究科やSSH統括室、教育振興部、国際部が連携しながら新たなプログラムを開発○探究科が中心となった教科横断型の授業開発○基礎学力定着のためにキャリア開発部や各学年団が連携しながら放課後学習支援に取り組み、学習習慣を確立○机間巡視の徹底と教科、学年団での相互授業見学の励行	
生徒指導	目標	規律を守り社会に貢献できる生徒の育成	○18歳成人を踏まえ、個性を育み規律を守る生徒の育成	【評価】 ○学期のはじめに昇降口にて挨拶運動を実施。年2回新柏駅構内におけるマナー指導を実施。 ○学年団や生徒部長による遅刻者への指導を行うも未だ遅刻者が散見される。 ○自転車通学者へのヘルメット着用や安全運転の声掛けを実施。
	方策	○授業に臨む態度や規則正しい生活を送る ○校内関係者や校外からの訪問者に挨拶ができる ○思いやりを持ち、他者と協働して物事に取り組める ○ICT機器を正しく使用することができる ○電車通学の生徒に向けたマナー向上運動	○学年団、生徒会と連携し、教職員も含め、挨拶ができ、声を掛け合うことができる風通しの良い環境の整備(通学時のマナー向上も含め) ○服装の乱れを正し、遅刻者を減らす取り組み ○安全教育の推進(理科実験における徹底、ICT機器の使用法、自転車通学者へのヘルメット着用義務づけなど)	
キャリア開発	目標	○生徒の自己実現に向けた進路指導	○生徒の自己実現に向けた全校体制の整備	【評価】 ○〔25入試結果〕国公立 現役67、既卒含め74（うち、左記難関大 現17、既3） ○〔25入試結果〕千葉、筑波 現18 中位層の底上げ必要 ○〔25昨年結果〕60%以上達成 ○〔今年度現時点合格数114(指定31、公募17、総合型27、芝推39) ○海外入門校10（昨年度5）
	方策	○生徒のロールモデルとなる現役学生や卒業生によるキャリア講演会の充実 ○外部講師を招いた進路講演会 ○キャリア開発部、学年、教科、部活動間による生徒の模試データや成績の共有(特に成績低迷者) ○PTA主催の仕事観との連携 ○芝浦工大豊洲Cや大宮Cの見学会の実施 ○自分史と年内入試における志望理由書の運動 ○年内入試希望者への面接対策指導 ○放課後学習支援における学年団と外部業者との連携促進	○中学段階における成績低迷者への学習支援と連絡進学の充実 ○理系学部進学希望者を中心に国公立大等への高い目標設定と、その環境づくり ○芝浦推薦者を増やすためのキャンパス見学会の実施 ○前2、高3向けの校内大学説明会の複数回実施 ○年内入試希望者向けの説明会実施とプロジェクトチームの結成	
特別活動	目標	○アフターコロナを踏まえた部活動、生徒会活動や行事の充実による自主的、実践的な態度の育成と豊かな感性の醸成	○生徒部がハブになりながら、生徒の健全育成に資する特別活動全体のあり方について改善を図る	【評価】 ○国際大会に繋がる科学技術コンテスト21名、校生国際シンポジウムやWebコンへの高校生の参加者38名 ○中高男女とも水泳部は関東大会・全国大会に出場。囲碁将棋部女子全国大会出場。
	方策	○生徒部、キャリア開発部、SSH統括室、探究科などが連携し、中高6力年を見通し、部活動や各種行事を連動させ、生徒一人ひとりの自己実現に資するあり方を検討する	○HRや生徒会活動の活性化 ○部活動と学習習慣を両立できる学習習慣の確立	
DX	目標	○DX化の更なる推進とICTリテラシー教育の充実	○教科会、学年会とも連携しての環境整備	【評価】 ○大きな問題無く校務システム更改終了。教務システム更改は次年度から準備に入る ○青少年ネット教育アカデミーネット依存トラブル対策プログラム実施。生徒が各自で自分の状況を把握する事が出来た
	方策	○働き方改革につながるDX化推進(校務システムの更新) ○DX部をハブとしたリテラシー教育の推進	○DX化に関しては、引き続き改善を検討 ○中高6年間を見通したITCリテラシー教育のプログラム化の検討 ○校務システムの更新と入試システム改善に向けた問題点の洗い出し	
健康支援	目標	○生徒、保護者、教職員の心身の健康の向上	○各学年団との情報共有と迅速な対応	【評価】 ○AED講習は今年度も多くの教員が参加し緊急時の対応法についてリマインドできた。安全の日も生徒には好評であった。○不登校生徒への対応も組織化された適切な指導体制が強化されつつある。○過年度のデータとの比較分析をおこなうことによりより実質的な動きかけができた。
	方策	○スクールカウンセラーとの連携の深化 ○命の教育を核にししながら、生徒の自己肯定感を高めるための方策を検討	○スクールカウンセラー活用に関する事例研究や他校視察 ○健康支援部をハブにキャリア開発部、学年団などと連携	
総務	目標	○新校舎建設に向けた環境整備と現在の教育環境の整備	○生徒が生き生きと学校生活を送ることができる環境整備	【評価】 ○担当組織によって、法人とともに新校舎建設の協議を継続している。 ○防犯カメラなどを確認・増設など整備中。今後、あらためて本校の防犯体制の整備を進める。 ○法人・市とも協議し、罹災時の本校での対応を確認するとともに、防災備蓄品の充実を進めている。 ○準備委員会によりコンセプト、必要な担当、活動の時期などを提起。一部の担当は活動を開始。
	方策	○基本計画策定に向けた柏校からの具体的な要望の整理(SDGsなども踏まえた構想を提案) ○現校舎における教育環境の整備(防犯、防災、設備、機器類の更新等) ○創立50周年事業のあり方や寄付金集めに向けた検討着手	○新校舎建設に向けた条件整理と校内における情報共有 ○現校舎でのLED化の推進等	
国際	目標	○世界で活躍できるグローバル人材の持続可能な育成を目指す	○研修旅行の企画・運営 ○海外大学説明会(イギリス、アメリカ、オーストラリア、カナダ ○海外大進学希望者へのキャリア支援 ○法人国際部やSSH統括室と連携しベトナム・FTTP高校、タイ・KMUTT大付属校との連携深化	【評価】 ○学校間交流を含め無事に終了した。 ○無事終了 ○事前事後学習を含め充実した研修となった。 ○事前学習および計画を遂行中。 ○現地の担当者を招聘し実施、これを元に海外大志望者・合格者が増えていた。 ○無事終了、生徒は満足していた。 ○先輩との繋がりができて生徒は満足していた。
	方策	○グローバルを視野に入れた探究学習に関してSSH統括室と連携	○海外探究ツアーの実施(アイスランド、スウェーデン、イタリアなど) ○SSCIII・芝浦推薦ホームステイ事前・事後学習	
広報	目標	中学入試、高校入試における志願者並びに第一志望者の増加	本校の魅力発信と芝柏ブランドの構築	【評価】 SNS更新は週1程度だが、生徒広報委員会と連携ができた。 ○塾等での説明会や附属との合同説明会を実施し、説明会参加者増（昨年比10%増）に繋がった。 ○近隣私立中高のウェブサイト进行研究し、制作者を確認するところまではできた。
	方策	○ウェブサイトの改修とSNSによる情報発信の強化 ○学校説明会の開催日、開催場所、生徒参加などの検討による活性化 ○地元小学校、中学校、学習塾へのPR	○ウェブサイトの改修によるアクセス数の増加 ○説明会のさらなる活性化	
組織・体制・経営	目標	私学としての魅力アップと、教職員の経営組織体制の強化	分掌間の連携強化と効率化による働き方改革の推進	【評価】 会議時間等の削減等は進みつつあるものの、残業者ゼロに関してはまだまだ達成に至っていない。管理職が交代で生徒下校時刻まで残るなどの施策を開始し、教員への声かけ等をスタートさせた。 ○外部講師招へいによる校内研修等に関しては、充実が図られている。
	方策	○会議時間の削減と内容の充実 ○教員間での情報共有 ○コミュニケーション力の醸成 ○管理職並びにミドルリーダー育成のための研修体制の充実 ○ワークライフバランスを意識した働き方改革と教員一人ひとりの働きかへの醸成 ○創立50周年事業として行われる新校舎建設に向けた取り組みを加速	○属人化を避けるための協業の推進と情報共有の徹底 ○保護者や外部の方とのコミュニケーション力のアップ ○建設コスト増を踏まえ、新校舎建設に向けたより良き方策の検討と、より緊密な法人との連携	